



寄せられた質問と答え

昨年10月31日から11月2日にかけて行われたWHOの経穴部位国際標準化公式会議（つくば会議）を終え、まずは筆者の耳に入ってきた質問にお答えします。

Q1:「公式会議で決まった内容は中国語か英語で見るとしかないのであるか?」

回答: 会議の文章は英語で合意され、英語の公式版がWHOから出されます。これを元に各国で翻訳されます。現在、私たちは日本語版の同時完成を目指しています。

Q2:「早く結果を見てみたいのですが、どうなっていますか?」

回答: 概要はこれまでの委員会便りや報道でご存じの方もいらっしゃると思いますが、WHO公式版が出るまでもう少しお待ちください。日本語版も同時に出来るように努力しています。2007年中には見ることができると思います。

また場所は未定ですが、4月1日に報告会を行う予定です。詳細は追って本誌などでお知らせいたしますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお、第二次日本経穴委員会作業部会の公式ホームページ (<http://point.umin.jp/>) があります。これまでの経過や主な変更内容、掲示板な

どもありますのでご利用ください。

Q3:「国家試験にはいつから出題されそうですか?」

回答: 筆者が明確に言えませんが、部位が変更になった教科書の出版が行われ、それが授業に使用されるようになって丸々3年が必要です。国際標準に対応した経穴の教科書の出版に関しては、関係団体との調整に当たっています。

Q4:「経穴部位の変更は困らないのですか?」

回答: 国内では、これまでも各流派や個人が独自の部位を利用してきました。日本の主張する部位が「買った」「負けた」ということではありません。世界は私たちの想像以上に動いています。各自が現在使用している部位や治療法を整理し、公式部位とどのように相違するかを認識することが大事です。その相違の蓄積の上に、公式部位と日本の部位との有意差を明らかにしていくことが日本の鍼灸の国際化に通じると思います。

公式会議を終えて

公式会議後、11月26日に日本鍼灸会館で第25回目の作業部会が行われた。

形井秀一委員長から各委員への感謝とねぎらいの言葉があり、静かな雰囲気での会議が始まった。筆者の胸には、委員長の安堵とは別に重い

気持ちがあった。各委員からの感想が次々に述べられていくと、筆者と同じ、この国際標準をどのように普及させるか、どのように使われていくのかという不安、危惧の言葉が多く出された。さすが辛苦をともにした作業部会委員！ここで終わらせることなく「これからがスタート」という雰囲気が全体を占めた。筆者は理教連の経穴（教科書）担当の編纂委員でもあるので、教科書の編纂なくしては終われない。同じ気持ちに、心の闇が払われたのである。

今後の目標・予定

委員長から今後の目標が示されたのを受け、討議の結果、4つの目標が立てられた。討議の内容も含め報告する。

①WHO公式版出版：つくば会議で合意された英文が印刷出版される。図は会議で使用したものをを使う可能性が高い。早ければ、2007年の2月、3月中の出版が見込まれている。日本語訳の途中で、英文表記にずれやケアレスミスがあることに気づいた。年内に英文チェックや日本語訳の再点検が各委員に課せられた。

②日本語公式版：英語と日本語の両方を入れる形式で検討。経穴名の英語数値コードは絶対に挿入し、学術論文にも採用されなくては、国際化が遅れる。簡単で見やすくわかりやすいものであれば、普及するなどの意見が出された。WHO公式版の出版に遅れないよう、作業分担や日程も討議された。4月1日に教育界・学会・業団体に報告会を行いたいので、それまでにWHO公式版の出版が行われることが期待される。これに伴い、日本語版出版以前に経穴委員会の関係5団体等に内容の評価をしてもらいたいとの意見も出た。一連の行事に間に合うように、各委員の宿題が重くのしかかった。

③仮称『新・標準経穴学』：活動報告完全版

を作成。第二次日本経穴委員会で収集・作成した資料や活動記録も残す。来年10月の完成を目標にする。

④経絡経穴学の教科書編纂：国際標準部位の国内への普及には教科書への採択や国家試験への出題が要となる。関係団体との調整に当たり、作業部会が先導的な立場になって努力していきたい。教科書は国際化の一環として、英語数値コード、英文の挿入が必要との意見もあったが、筆者は挿入してあるものと、なるべく情報量の少ないものの2種類が必要との意見を出した。

また、この機会に経穴の日本語の読み方を整理することが、懸案事項となっている。視覚障害者にとっては音や点訳の課題がつきまとう。4月に教科書の出版をするためには、点訳という作業があるので、前年の8月ぐらいまでに原稿ができていなくてはならない。作業部会が協力することが決意された。

まとめに代えて

①女性の活躍：つくば合意の成功には、参加者に多くの女性があり、女性の副議長による議事の円滑な進行も評価された。筆者がこんな思いを持っていたら、浦山久嗣委員から作業部会にも女性の採用が提案された。各委員からも賛同の意見が出され、今後の作業部会の人員変更も討議された。

②語学力と鍼灸の国際化：日本の鍼灸師にもっと語学力が必要との意見が出された。会議に参加して筆者も大いに実感したし、自分の語学力を恥じたものである。しかし、これに臨床力、専門的な知識（東西医学の知識、古典など）をどのようにバランスよく組み合わせられるかが課題ではないか。現在の日本の長所を考えた発達もあるのではないか。今後、読者の皆様とも大いに討議しようではありませんか。